

県から津曲医師参加

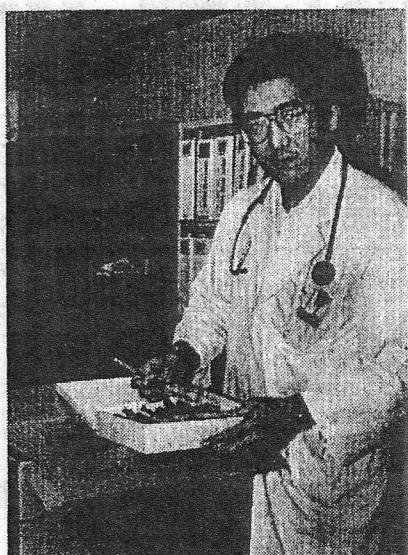
ケニアで医療活動

第1陣きょう出発 ジブチ派遣

28日には

内戦の激化で飢餓や伝染病に苦しむソマリア難民を救済するため、アジア医師連絡協議会（AMDA、岡山市榴津、蒼波医院内）が二十三日から二日間、医師をケニア、ジブチに交代で派遣、国内の非政府機関（NGO）二団体と協力して救済活動にあたる。第一陣として、津曲兼司医師三氏が同日ケニアへ出発、約二週間にわたって現地の医師らと診療にあたり、衛生状態などを視察して今後の活動方針を立てる。

ソマリアでは二年前から、や略奪なども起きている。ケニア、ジブチ、エチオピア内戦が続く、部族間の抗争、戦火を逃れた難民は隣接するピアに流入、その数は百万



注射器などの医療器具を点検する津曲医師

人の上ると見られている。キャンプではマフリアや結核などが流行、干ばつで井戸は干上がり、難民たちは枯れ木で作った小屋で生活するなど悲惨な状況に置かれている。

昨年十一月、静岡県で開かれたNGOの集会で、ケニア内務省から救済を依頼された北九州市の「アフリカ教育基金の会」が医師派遣を提案。駐日ジブチ大使から要請を受けていたAMDAを中心に、東京都本部を醸く「立正佼成会」も協力して、ケニア、ジブチ

西国のソマリア難民の救援に取り組みすることを決めた。津曲医師は両団体から派遣される七人とともに、難民二万八千人の生活するケニア東北部ソマリア国境の都市エルアックで診療所を開設する。現地を視察したあと帰国し、年末まで、同一医師を含めAMDAの医師四人が交代で診療活動を進める。ジブチへは今月二十八日に第一陣が出発、二十人以上の医師が参加する。わが国のNGOがソマリア難民の救援に向かうのは初めて。AMDAはこれまで「貧困に苦しむ国に貧しい人々が流れ込むという窮状が続いている。三団体が力を合わせ、医療だけにとどまらない総合的な貢献をしたい」と話している。